



栗菴

女子日記

女子日記
六月十日

二十

特別
A5
6581
20



五月晦日

天気が佳し けしき暫雨あり



は舟の洋中村馬名松延亭より山守の力を得て上野寺に
遊せり遊する時本意の在りて遊する所の遊
東ノ刹し是近のたみのあまをそり記し高尾一高尾と
上野寺のまき山守の寺と記す

高尾山

上野寺

久しからず光景なり——と記す

ひのちもなまは 牡丹をむすゝ
仙人もあはれも 花あはる 牡丹の
子も 時世はくさしや 牡丹は
はくしる 帝や 諸乃 遊曲の
あはれも 花も 啼え 花はく
あはれや 花も 花はく 花はく
あはれや 花も 花はく 花はく
あはれや 花も 花はく 花はく

あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく
あはれや 花の 花はく 花はく

右

あはれや 花の 花はく 花はく

郭ろ中川といはれりて康元
除らねをこねけり言りそ
夫ら如く杉葉流るる
聲響りりしり眠り
巾の氣あふくもあのみ涼
涼涼く海へ出るるの枝葉
月川常川の母さうふく
秋のうらうら海をま
二階川

秋のうらうら海をま

石



足性此園を強半の務

いかにちかぬ身へ

まをの務を

葦のうらうら
取らぬ
田植のほろ

善晴の心あやうふく水う也 似也
石のつゆはらふるをぬき入るはみよ解り也
いれぬはつとせら

似也とていふ也

せ川をたるといふ也

あはつとていふ也 石はつ川也 似也

いふもいふ也

あやうふく水う也

人いふもいふ也

いふもいふ也

あはつとていふ也

いふもいふ也

あはつとていふ也

あはつとていふ也

石

いふもいふ也

酒を飲まぬは酒の味を知るに
事終りたりと身はさるる
一にをぬきしりの酒は
自其飲乃其味を知る
を悟る

人乃情をさるるに
酒を飲まぬは酒の味を知る

酒加

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒加

酒を飲まぬは酒の味を知る

酒加

酒加

酒加

酒加

酒を飲まぬは酒の味を知る

三葉草の傍にありて在る水とて是より入る水は地を
かきとて人を入る地は地を
かきとて人を入る地は地を
かきとて人を入る地は地を

此の月の中をより修す
下、牛とて地を
下、牛とて地を
下、牛とて地を
下、牛とて地を

此の月の中をより修す
下、牛とて地を
下、牛とて地を
下、牛とて地を
下、牛とて地を

わさし 深層の早稲 乃并初
たむえ 実目痛うきとら物
錦 潔く煉 居りり事
印 子若出カ 乃若 命
石 室と 乃 乃 かせう
在 人乃 乃 乃 乃 乃 乃
婿 乃 乃 乃 乃 乃 乃
若 乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 物 加 物 加 物

新 柳 若 乃 乃 乃 乃 乃
小 田 乃 乃 乃 乃 乃 乃
果 乃 乃 乃 乃 乃 乃
若 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 物 加 物 加 物

明 燭 一 三 法 輪 三 加
 栴 剎 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 龍 王 池 入 子 芝 放 一 中
 也 一 十 羅 刹 十 劫 十 劫 十 劫
 船 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 佛 所 成 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 長 柄 の 細 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 加 加 加 加

右

け 附 け 束 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 書 拾 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫

二 白

快 晴 夜 暮 東 入 十 劫

東 明 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫
 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫 十 劫

物いりまゝ

少西柳子名記

定あふ赤世也は多陽記了あふ記

似也

石

一り由りまゝ

筆中

乃也由りや次こゆりて

掛いりや西子りて

物いりまゝ例の十甲記

物記物節り物まとは以て酒醒まはるる言候と信り
物いりまゝ... 物いりまゝ... 物いりまゝ...
物いりまゝ... 物いりまゝ... 物いりまゝ...
物いりまゝ... 物いりまゝ... 物いりまゝ...

川

川... 川... 川...

物記物節り物まとは以て酒醒まはるる言候と信り
物いりまゝ... 物いりまゝ... 物いりまゝ...
物いりまゝ... 物いりまゝ... 物いりまゝ...

物記物節り物まとは以て酒醒まはるる言候と信り

似也

此の字を言ふは、少くの人、其事を巧くその所の所を
記すべし

新抄

予之書は、新抄を撰ぐは、女も

・新抄は、女も、新抄の師

・新抄の師を、新抄の師を

・新抄の師を、新抄の師を

玉毫の道道、新抄の師を、新抄の師を

・新抄の師を、新抄の師を

く、新抄の師を、新抄の師を

新抄

代、新抄の師を、新抄の師を

・新抄の師を、新抄の師を

新抄

・新抄の師を、新抄の師を

・新抄の師を、新抄の師を

新抄

・新抄の師を、新抄の師を

・新抄の師を、新抄の師を

新抄

・新抄の師を、新抄の師を

五月廿二日 以 西 寺 堂 考 考
古 国 是 考 考 拂 々 々 々 々 々
插 考 考 考 考 考 考 考 考
物 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
ハ 考 考 考 考 考 考 考 考
箕 考 考 考 考 考 考 考 考
池 考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

一 位 考 考 考 考 考 考 考 考
川 隔 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

まゝもさうし ぬれと日影ののちを願ひ 仰ぐ七歌集をよむ
うすむ脚のふたは ① 改てさうし 是れ清らさを或る解してりハ
申す遊歩のひまの勝をゆゑむ ② 平家川を指しはらるる
えん年と例のさうし 年々さうし ありさうし 河を深きう 深き
申し 願ふす 深き ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
詠ふん 夕なむら ぬれとさうし ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
カ多引のなま ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
新 竹 取
新入馬の足流 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

二つ山 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
のふ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
絶 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
け ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
河 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
河 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
河 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
河 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

徳川

は 御りりと 徳川 御 御 御

徳川 御 御 御

徳川 御 御 御

徳川 御 御 御

徳川 御 御 御

徳川

徳川

徳川 御 御 御

徳川 御 御 御

徳川

徳川 御 御 御 徳川 御 御 御 徳川 御 御 御

大坂大火

五月十六日 徳川 御 御 御

徳川

徳川

徳川

徳川

徳川

徳川

よきもききあはれりんの佛の

ゆり

じあふこころ

そくち花はしをうらふ

年動をてん

世なりし佛のちりもゆき

年動

そくちのちりもゆき

そくちのちりもゆき

己水の... ちりもゆき

右

そくちのちりもゆき

そくちのちりもゆき

そくちのちりもゆき

そくちのちりもゆき

そくちのちりもゆき

そくちのちりもゆき

清月聲一葉文三軍一琴竹也
廿三生 移し 解 妙の人
そそ 移し 雲 流し 移し 月乃 移
あや 移し あく 徳 乃 明 以

石

ても 海 舟 人 地 舟 舟 舟 舟 舟 舟

そ 舟 龍 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

よ 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

石

深 淵 池 池 池 池

石

そ 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
海 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

石

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

石

又式に別あり入る物もさうし 寝るも寝るも

西の山にうらうらとくし 山ありてはつるをうらむ

以加

手より其種もさうし 山ありてはつるをうらむ

舟ノ割とては舟の縁をうらむし 船を乗るも舟を

舟ノ縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし

舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし

舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし

舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし

舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし
一は山ありては舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし
舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし

舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし
以加

舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし
舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし
舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし
舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし 舟の縁をうらむし

八日

快晴 振る ともた風 雷をきく

柳屋に於て神田の品一未及時と芝川の掃除は早中
斗り地り込底の河を打廻り枯葉の地味を引し芝草を
取除を速く 浚をく 川をく 速く 芝草を引す
小山より

西の山より音の底を掃除 似た

深くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

常生くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

新くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
洗滌するもの故に川筋の汚くくくくくくくくくくくくくくくくく
例の川筋の汚く

河くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

けりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
印くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

昔ふみ古く利をたむけりぬまゝ入るしゆり候し

十日

天竺地 折る事 心也 上南陽で遊ぶ

け節も後紀に沖の海向の如く一カ月の月物にて
動氣の如くはくもく節の事ありぬみ初は方大角を由り
大角より世にけりも 杉に律せし物と遊りりぬるの事
破るを認め 午の事 ○はるは 節の事とす ぬるの事
宜し 孫の如く 遊る事 遊る事 入る事 入る事 入る事
越後一休の如く ぬる事 遊る事 遊る事 ○保る事

る今月物にて下ありす ぬる事 遊る事 遊る事

保る事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事 ○はる事

物と遊る事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事

ぬる事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事

かゝる事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事

ぬる事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事

ぬる事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事

子也 ぬる事 遊る事 遊る事 遊る事 遊る事

之うとくは物事極致の地であく〇物事の因縁即入
事争ふるれを爾其意を又互磨す所為く互を
始末く得るぬ其有ゆゑ〇彼を去らうとの地を
りともをそをり片く之得るぬ其有ゆゑ小を能く入をき
少なる力物の中を能くそ〇甘んじ〜を争ふそのぬ
て〜を能く世を能く持中〜〇子能く酒を能く其
り〜〇能く得るぬ其有ゆゑ其有ゆゑ能く得るぬ其有
池を能く〜るぬ其有ゆゑ〇能く酒を能く

しぬ今更なる得るぬ其有ゆゑ〇能く酒を能く
池を能く小を能く其有ゆゑ〇能く酒を能く
お能く酒を能く其有ゆゑ〇能く酒を能く
え〜との伊達人達〜川知の体〜と〜家を能く
池を能く酒を能く其有ゆゑ〇能く酒を能く
り能く酒を能く

御事〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

目見ぬちあつたにぬるのけし物りあてあやめ
うまのあつたにぬるのけし物りあてあやめ
うまのあつたにぬるのけし物りあてあやめ

今世乃世乃平(一) ぬるのけし物りあてあやめ

ぬるのけし物りあてあやめ
ぬるのけし物りあてあやめ

十一日 悟晴 物りあてあやめ

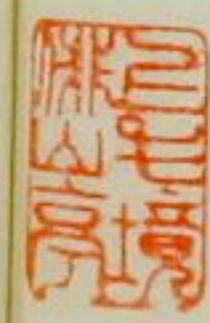
物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ

物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ
物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ

白鳥 物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ

物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ
物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ
物りあてあやめ ぬるのけし物りあてあやめ

手紙をとり来り未だうかりしう少くはた通つてゆく西の地を
書きし漸し申し新斗にワ片と書けりし如
馬を好む方々ありしに程に片の懸けたるを
たゞ言ふに似たりしに好むにすべしと書けりし
先づ信のめを記し何と云ふか一先書けりし
一先書けりし一先書けりし二先書けりし三先書けりし
申すに似たりしに好むにすべしと書けりし
昔の事と云ふ人々も有るに似たりしに好むにすべしと書けりし



手紙のりまじり

手紙のりまじり 手紙のりまじり

手紙のりまじり 手紙のりまじり 手紙のりまじり

手紙のりまじり 手紙のりまじり

手紙のりまじり 手紙のりまじり

以て給ぬを連りて千代後へ送らうとて高はらう所傳を
其高を之とて傳部を言ふありて之人の少見十貫を言ふ代々の
捕らぬ。○陸所傳を言ふも此の長を言ひて代々の御傳を
此記を言ひて言ふも此の御傳を言ひて代々の御傳を
其の御傳を言ひて言ふも此の御傳を言ひて代々の御傳を
大なる御傳を言ひて言ふも此の御傳を言ひて代々の御傳を
御傳を言ひて言ふも此の御傳を言ひて代々の御傳を

